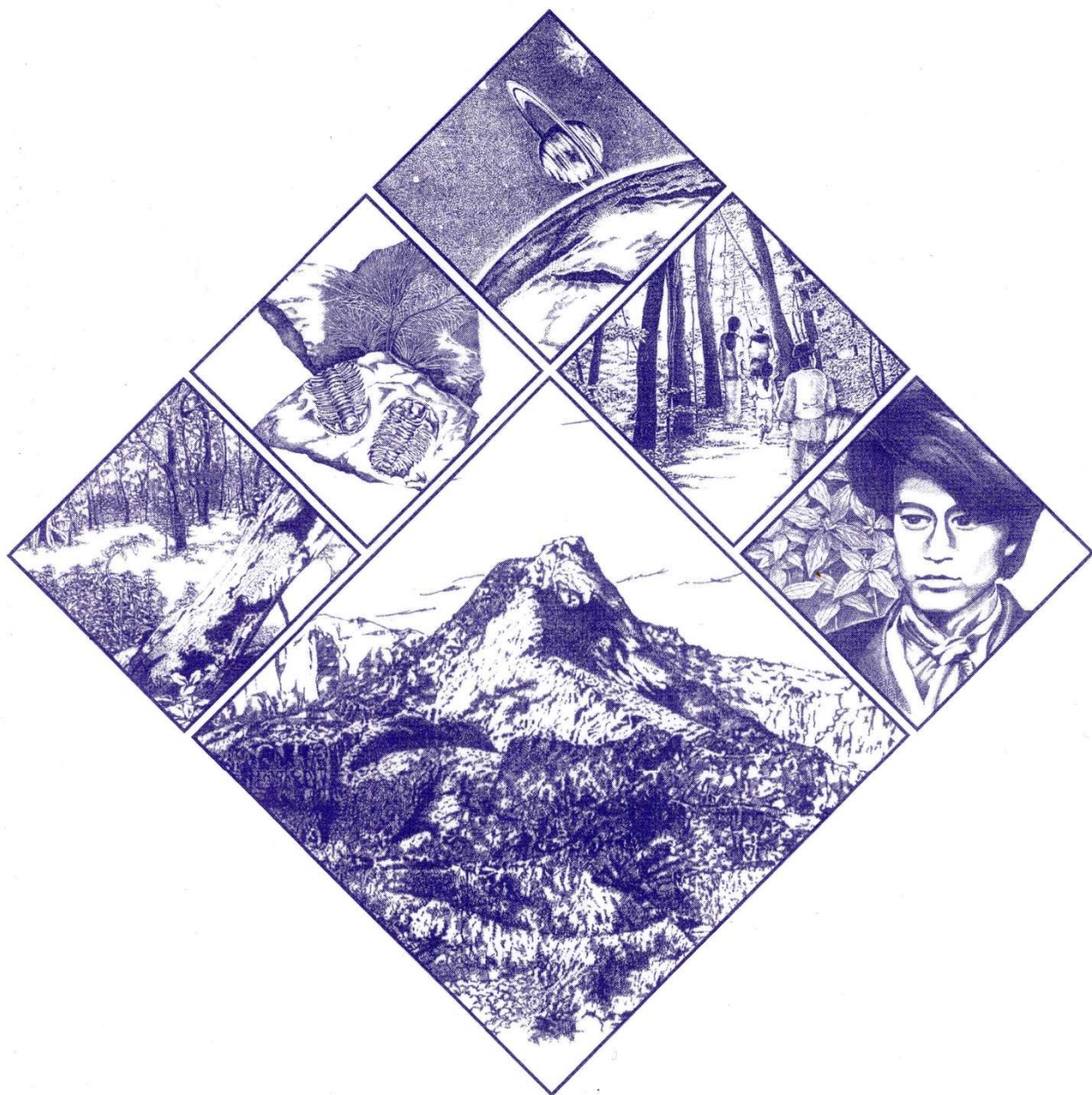


越知町立 横倉山自然の森博物館

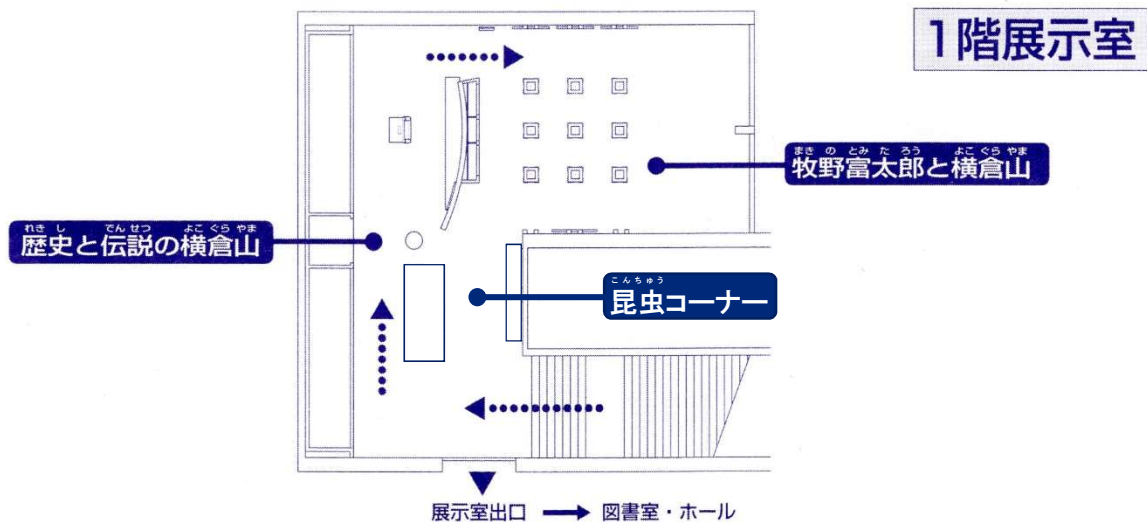
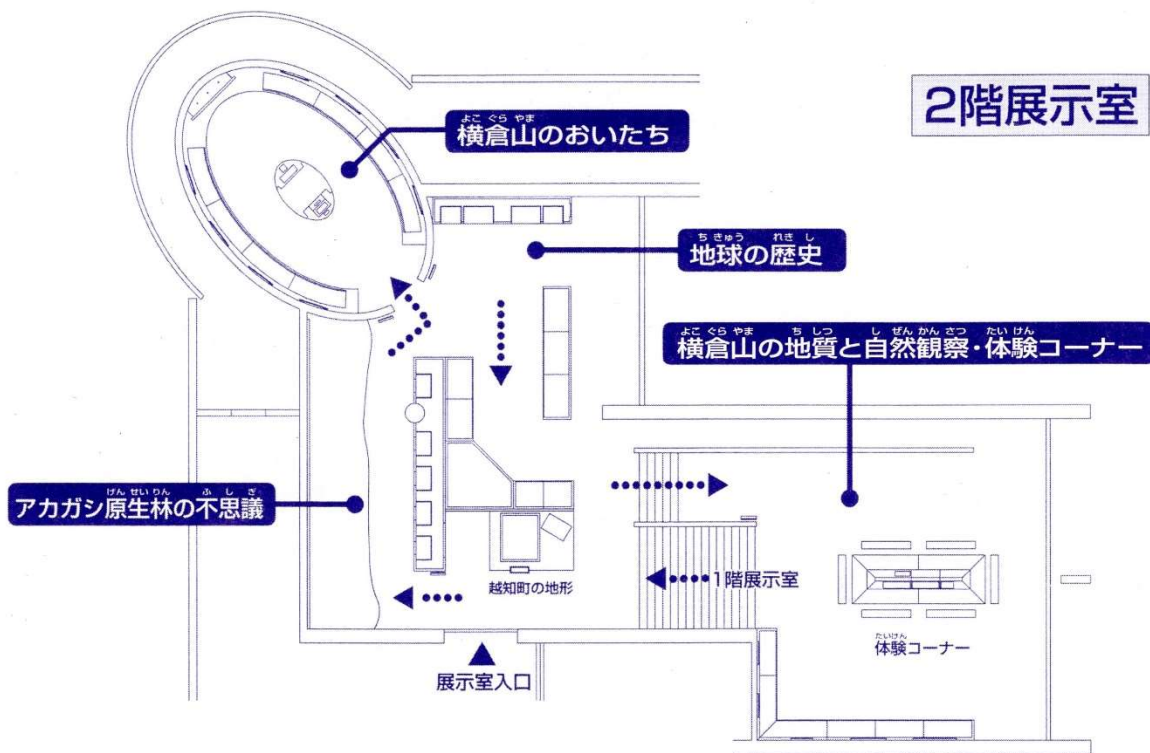
展示の手引き



てん じ しつ あん ない 展示室のご案内

展示室は、6つのテーマで構成されています。

矢印の順路にそって進み、横倉山の歴史や神秘について体験してください。

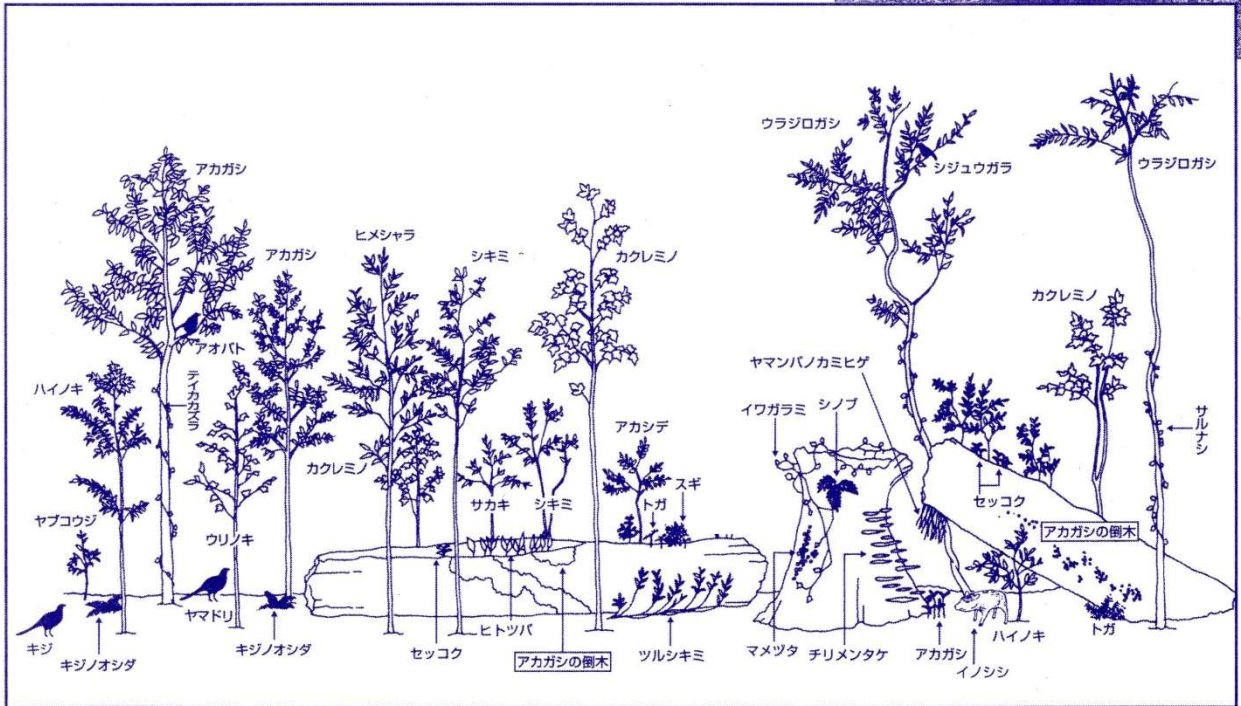


アカガシ原生林の不思議



この大ジオラマは、横倉山で見られるアカガシの原生林を再現したものです。

アカガシの倒木から新たな植物（生命）が誕生し、成長し、やがて朽ちてしまうというサイクルは、そこにすむたくさんの動植物の一定のバランスの上に成り立っているのです。四季折々にさまざまな命が生まれ、それが毎年くりかえされるアカガシ原生林のようすを観察してみましょう。



5つの小ジオラマでは、季節によって見られる横倉山の動植物を再現しています。



カゴノキ
アオゲラ



カブトムシ
ヒラタクワガタ
マンナンタケ



ツチアケビ
ギンリョウソウモドキ

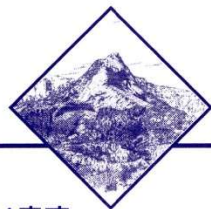


ムササビ



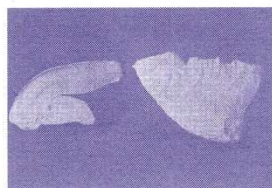
アサギマダラ
キジョラン

よこぐらやま 横倉山のおいたち



横倉山は、コノドントとよばれる日本で最も古い化石が発見されたことで知られています。また、今からおよそ4億3000万年～4億2000万年前に、赤道付近のサンゴ礁の海にすんでいたクサリサンゴやハチノスサンゴ、三葉虫などの化石がたくさん見つかることでも古くから有名でした。なぜここ横倉山で、赤道付近の生き物の化石が見つかるのでしょうか？

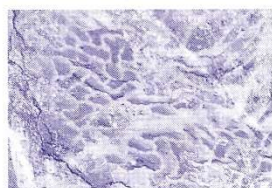
それは、横倉山がかつて赤道を中心にして存在していた Gondwana 大陸と呼ばれる超大陸の一部を成して、やがてこのサンゴ礁を含む大陸の一部が分かれ、長い年月をかけて今の横倉山の位置まで移動してきたためなのです。この大陸の一部の断片は、現在では「黒瀬川構造帯」とよばれる大断層帯に分布していて、日本列島の歴史だけでなく地球の歴史を知る上で大変重要となっています。



■ コノドント [日本最古の化石]

コノドントアニマルと呼ばれる魚のような形をした動物(脊索動物)の顎の部分にあった大きさ1ミリほどの器官で、歯のような役割をしたと考えられます。

※展示は写真のみ。

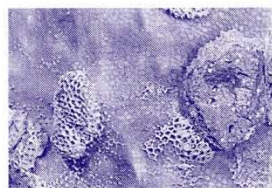


■ クサリサンゴ

直径1ミリほどの卵形をしたサンゴの個体が、鉄の鎖のようにつながっていることからクサリサンゴとよばれます。

シルル紀に大繁栄しました。

※この化石と同じものがオーストラリアで見つかっています。



■ ハチノスサンゴ

六角形をしたサンゴの個体が、蜂の巣のように集合していることからハチノスサンゴとよばれます。クサリサンゴと同じく、シルル紀に大繁栄しました。



■ リン木 (鱗木)

茎の表面に菱形の魚の鱗を思わせる模様のある原始的 [日本最古] な植物です。

※この化石と同じものがオーストラリアで見つかっています。

横倉山で見つかるサンゴや三葉虫の化石は、この時代の生き物たちです。

横倉山で見つかった日本で最も古いコノドント化石は、この時代の生き物です。

地質年代表

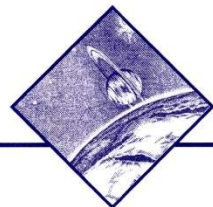
地質年代		絶対年代
新生代	第四紀	完新世 (かんしんせい) 更新世 (こうしんせい)
	第三紀	鮮新世 (せんしんせい) 中新世 (ちゅうしんせい)
		漸新世 (ぜんしんせい) 始新世 (しんしんせい)
		古第三紀
	中生代	白亜紀
古生代	ジュラ紀	2億年前
	三畳紀	2億5000万年前
	ペルム紀	3億年前
先カンブリア時代	石炭紀	3億6000万年前
	デボン紀	4億2000万年前
	シルル紀	4億3000万年前
古生代	オルドビス紀	4億9000万年前
	カンブリア紀	5億4000万年前

地質時代の区分は、古生物の変遷(進化・絶滅)をもとにして確立された時間区分です。

そして、その地質時代の区分に対応する地層が地質系統区分です。たとえば、古生代の地層は古生界、シルル紀の時代の地層のことはシルル系とよばれます。

地質時代区分 (時代)	地質系統区分 (地層)
代	界
紀	系
世	統

ち きゆう れき し 地球の歴史



私たちの住む地球は、今から46億年前に誕生しました。

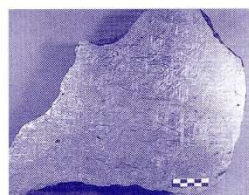
これは同じ太陽系の隕石や、月の岩石を調べることでわかります。

誕生した頃の地球は微惑星の激しい衝突がくりかえされ、そのたびに大きく成長していきました。

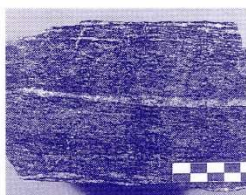
最初の頃はドロドロに溶けた“マグマの海”で覆われていましたが、徐々に冷えて固まっていきました。

やがて大気がつくられ、雨が降り、陸と海ができ、最初の生命が海で誕生しました。

生命は、海から陸、空へと進化をとげ、やがて私たち人類が登場しました。

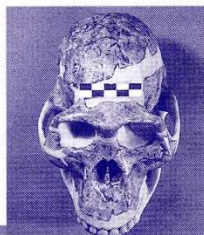


ギベオン隕石(いんせき)
[46億年前]
※地球の中心・核(コア)
と同じ物質

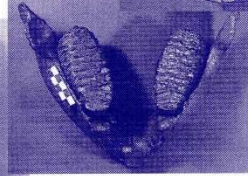


アキャスタ片麻岩(へんまがん)
[39億6200万年前]
※地球最古の岩石は42億年前

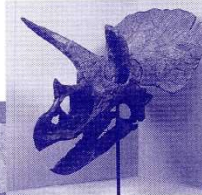
アウストラロピテクス(猿人)
最も原始的な人類



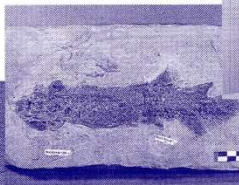
マンモスゾウの
臼歯(きゆうし)



トリケラトプスの頭骨

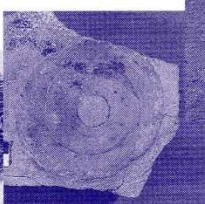


ユーステノプテロン
最初に上陸した魚類



リアンコイリア
(バージェス動物群)

原始クラゲ
(エディアカラ動物群)



ストロマトライト



海中でラン藻が酸素を
作りだしました

背骨のない動物

背骨のある動物

八虫類の発展

哺乳類の発展

両生類の発展

よこぐら やま ちしつ 横倉山の地質 化石フィールドワーク



化石や岩石を調べると、さまざまなことがわかります。

生命の進化のようすは化石に記録されていて、さまざまな生物の誕生と絶滅のようすを知ることができます。

また、横倉山の石灰岩が4億年以上も前に赤道付近のサンゴ礁からつくられたことや、越知町市街地の大部分の地質が10万年前の仁淀川の河原がもとになっていることも、化石や岩石を調べることでわかります。

体験コーナーで化石や岩石に自由にふれてみてください。

そして、化石や岩石ができた時代のようにすを想像してみてください。

そして、化石や岩石ができた時代のようにすを想像してみてください。



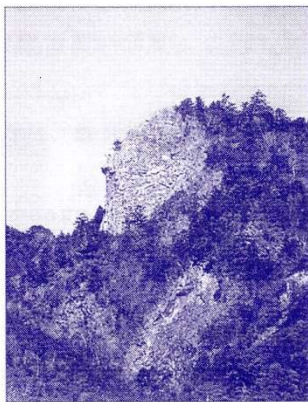
隕石を持ち上げてみよう!



化石にふれてみよう!

れき し でん せつ よこ ぐら やま 歴史と伝説の横倉山

横倉山の歴史は、別府経基が10世紀前半に越知付近を開拓し、三嶽山（横倉山の古名）に三聖大権現を祭り土佐国唯一の修験道場としたことから始まります。1122年[平安時代]に、四国最古の紙本経塚ができ、1444年[室町時代]には、12社権現に蔵王権現を合祭して横蔵大権現と改め、ここから横蔵山と呼ばれるようになり、現在の横倉山に至りました。山中には、修験道の遺構（“馬鹿だめし”・カブト嶽・住吉などの行場）があり、今も鉄の鎖が残っていたり経筒・剣などの遺物も見つかっています。また、安徳天皇陵墓参考地があり、安徳天皇潜幸と、その従臣たちにまつわる伝承が数多く残っています。



馬鹿だめし

■ 安徳天皇陵墓参考地



れき し ねん びょう よう こ かい せつ 歴史年表の用語解説

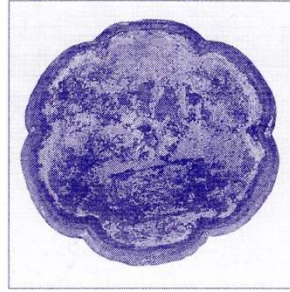
三 聖	3人の聖人。
権 現	仏が人々を救うために、神・人など仮の姿になって現れたもの。
紙 本 経	紙に書かれた経典。
経 塚	仏教経典を後世に残すために埋めた塚。
行 宮	天皇が外出したときの仮の御所。
行 在 所	天皇が外出したときの仮の御所。
蔵 王 権 現	釈迦如来の化身といわれ、修験道の本尊。
大和国金峯山	奈良県吉野山から山上ヶ岳に至る連峰。
検 地	年貢高などを算定するための田畑などの測量調査。
当山図絵馬	真言修験の山や寺を描いた絵。
廃 仏 毀 釈	寺院や仏像、経典などを破棄する仏教排斥運動。
膏 取 一 揆	1871年(明治4年)12月、高知県中部の山間僻地に起った徴兵制反対運動。
陵墓参考地	天皇の陵に準ずる墓地で宮内庁が管理。
潜 幸	天皇がお忍びで出かけること。
松 山 街 道	高知と松山をつなぐ重要な道。
用 居 番 所	江戸時代、松山街道の要所の池川町用居で監視、徴税などを行った所。
先 達 野	越知町の地名で横倉神社の北300メートルの所。



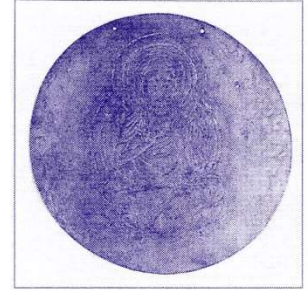
■ **木造蔵王権現立像**
平安末期の修験道造像の古例として注目される文化財です。



■ **保安3年銘経筒乾拓本**
この拓本は、横倉山経塚造営の最初に作られ、四国最古の紙本経を納めたといわれる保安3(1122)年銘の経筒の乾拓本です。



■ **湖洲鏡**
中国の宋の時代(960-1279年)の渡来鏡で、6つの花びらのような形をしていることから、六花鏡ともよばれます。



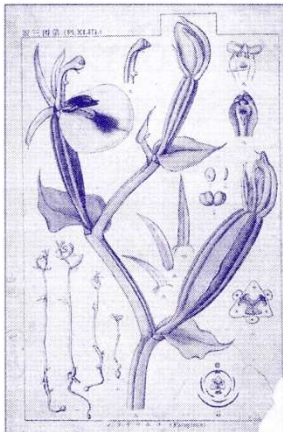
■ **線刻如来鏡像**
阿弥陀如来像が彫りこまれた銅板の鏡像で、横倉山ノ宮(現横倉宮)の御正体と考えられています。

まきの とみ た ろう よこ ぐら やま 牧野富太郎と横倉山



横倉山は、樹齢数百年のアカガシの原生林や大杉群をはじめとし、数多くの種類の植物が自生していて、植物の宝庫と言われています。また、コオロギランなど横倉山特有の珍しい植物もたくさんあります。

横倉山は世界的植物学者で日本の植物学の基礎を築いた、牧野富太郎博士の研究の山としても有名です。牧野富太郎博士は、越知町に隣接する佐川町に生まれ、子供の頃から植物を愛し、横倉山の植物を研究しました。「ヨコグラノキ」や「ヨコグラツクバネ」などは、牧野富太郎博士が横倉山にちなんで新種として命名したものです。



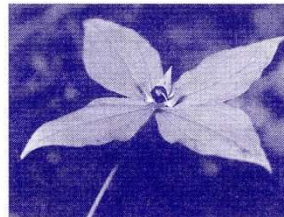
■ **牧野富太郎博士の植物画(コオロギラン)**

牧野富太郎博士の描いた植物画や図解は大変精度の高い細密画で、芸術品としても評価されています。

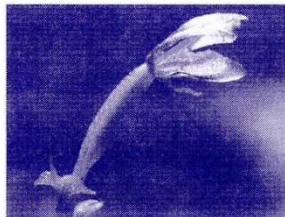
資料提供：高知県立牧野植物園



■ **ヨコグラノキ**



■ **ヨコグラツクバネ**



■ **コオロギラン**

